

二五三八番

ひとり寝ひとぬと 薦朽こびくちめやも 綾席あやむしろ 緒をになるまで
に 君きみをし待またむ

二五三九番

相見あひみては 千ちとせ年ねや去いぬる いなをかも 我われや然しかおも思
ふ 君待きみまちかてに

二五四〇番

振分ふりわけの 髪かみを短みじかみ 青あをくさ草くさを 髪かみにたくらむ 妹いもを
しそ思おもふ

二五四一番

たもとほり 行箕ゆきみの里さとに 妹いもを置おきて 心こころそち空そちな
り 土つちは踏ふめども